



第15号
平成31年度
3月26日発行

志高く

自ら考え 学び続ける生徒
心豊かで 思いやりのある生徒
体を鍛え やり抜く生徒

あなたの“伸び”を確認できましたか？

—自分を伸ばすために“自分なりに頑張ってきたこと”を振り返ってみましょう—

石川 浩

日米通算4,367安打を打ち、数々の金字塔を打ち立てたアメリカのMLB、シアトル・マリナーズのイチロー選手が3月21日に現役を引退しました。試合後の記者会見のイチロー選手の言葉は、気持ちを素直に前向きにさせてくれる魅力に溢れていました。「引退の決断に後悔はないか」との質問に答えた「後悔などあるはずがありません」。プロの世界に入り28年間やり抜き、やり切った達成感が伝わってきます。「結果を残すために、『人よりも頑張ってきた』とはとても言えないですけど、『自分なりに頑張ってきた』ということはハッキリ言える」、「『自分の限界をちょっと超えていく』ということを繰り返していく。そうすると、『いつの日からか、こんな自分になっているんだ』という状態になっている」「少しずつの積み重ねでしか自分を超えていけない」……。



2学期に三大会事を初めとしてたくさんの挑戦をし、膨らませてきたそれぞれの可能性と資質や能力。それらを身に付け、自分がどのように・どのくらい“伸び”たのか確かめるのが3学期の重点でした。卒業した3年生は進路を決める入試でも、中学校最後の授業である卒業式に臨む態度や歌声でも、それぞれの“伸び”を示してくれました。2年生・1年生も卒業式で、また3年生が卒業した後の残り6日間の3学期で、一つ上の学年に進級する「構え」で“伸び”を見せてくれました。

こうした“伸び”はいつでも同じように得られるというわけではありません。伸ばす・伸びやすい時期・タイミングがあるのです。中学生である3年間は、一生のうちでも最も伸ばすのに適した時期の一つです。宮澤章二さんの「流れのなかで」という詩を紹介し、今この時を大切に！

流れのなかで

宮澤 章二

聞けるときに	聞いておかないと	決して聞けないコトバがある
言えるときに	言っておかないと	再びは言えないコトバがある
つかめるときに	つかんでおかないと	死ぬまで無縁の宝がある
みがけるときに	みがいておかないと	光らぬまま朽ちて行く宝がある
得たものを失う	その数よりも	得られずに失われたものたちの数の多さ
わずかの知恵と	わずかの努力が	それらに触れ得たかも知れないのに……
新春の光がなでる	新しい日記は	最初の頁から最後の頁まで 純白
しるせるときに	しるしておかないと	二度とは記せない記録がある



春休みは3学期最後の6日間に引き続き「進級の構え」の時間です。春休みは短いので、ボーっとしていると何も少しも伸ばせず過ぎてしまい、チョコちゃんに叱られてしまいますよ。春休みは短い……と言っても12日間あります。やろうとすれば今年度の振り返りもできるくらいの時間です。自分を伸ばすために“自分なりに頑張ってきたこと”を振り返り、あなたの**善進**につなげてください。

3学期を振り返って

編養 理紗さん

1年5組



平成30年度修了式の中で、1年生と2年生の代表が、進級に向けての決意を語ってくれました。その一部を紹介します。

1年間のまとめとなる53日間の3学期も終わりの日を迎えました。私たちはその中で多くのことを学び、「先輩になる」準備をしてきました。

スキー教室は中学校に入って初めての宿泊行事でした。小学校のときは割り振られた仕事をただこなすだけでしたが、中学校では自分たちで企画し実行しました。言われたとおりにこなす「他律」から自分で自分をコントロールする「自律」、そして他者の力を借りずに独り立ちする「自立」へと続く、私たちが成長していく道筋をとらえることができました。普段はできている無言入退場や無言待機がスキー教室ではできなかったことから、「自律」しているつもりだった私たちは、先輩たちがしているからやるという「他律」の状態にとどまっていたことに気づきました。

スキー教室で見つけた課題を改善するために取り組んだ「理想の先輩像アンケート」では、学年全体で「先輩になる」という意識が高まりました。また自ら気づき行動を起こす「自立」した学年になるために行った「学校生活を見直そう」キャンペーンを通して、あいまいだった時間への意識や昼休みの過ごし方が少しずつ改善できました。

三送会の練習で見た待っている姿、合唱や呼びかけに真剣に取り組む様子など、1年間の経験の違いだけとは思えないような2年生の姿。卒業式で涙を流しながら歌う姿や心を打つ別れの言葉など友達や深中への3年生の熱い想い。目の前の先輩たちの姿や言葉にふれ、「私たちがあんなふうになりたい」と強く思いました。

私たちが来月2年生になり、新入生から「先輩」と呼ばれますが、今私たちが感じているような頼もしさを見せられるように、私たちの1年間の経験を活かしていきます。また、一人一人が「正しいことを進んでやる」ことを意識し、「先輩になる」責任を果たせるよう行動していきます。

甚野 祐哉さん

2年1組



2年生が主体となって運営する行事が増え、充実した日々を送った3学期。スタートは1月の志高式。社会体験チャレンジで「働くことは困難も多く大変だけど、その分得られるやり甲斐はとても大きい」ことに気づきました。自分自身で感じたことを志高の言葉にまとめ、大勢の前で発表しました。これをきっかけに日々の自分と向き合い、より充実した日々を送るようになりました。

3月に行われた三送会では、3年生への感謝を伝えるために1・2年生が工夫を凝らして感動的なものにする事ができました。特に呼びかけでは、自分のできる限りの力を出して成功させようという気持ちを持って臨めました。装飾も原案からみんなで考えリードできました。1年間を通して培った自ら考えて行動する力を活かしたからこそ成功させられたと思いました。緑学年のテーマである「自立」に近づいていると思います。

ぼくは3年生でよりよい生活を送るために目標を二つ立てました。一つ目は「当たり前に行っていることを大切にすること」です。部活動は最後の大会やコンクールまで限られた日々です。今当たり前のように活動している部活動も、引退は確実に近づいてきています。だから毎日の活動で目標に近づくために質の高い練習をしていきたいです。そして最後は悔いなく引退できるようにしたいです。

二つ目は「正しいことを貫ける強さをもった人になること」です。よくない行動をしている友達を甘やかすのは本当の友達ではありません。集団として成長できるように本当に正しい行動をしているか自問自答して、最善の行動をしていきたいです。

1年間を通して緑学年は1年生の時より落ち着いて生活できるようになりました。この1年間につけた力を更に伸ばし、最高学年として、深谷中の顔として常に向上心をもって生活していける3年生になりたいと思います。